

人口と世帯	人口	401,686人
	男	199,098人
	女	202,588人
	(前月より20人減)	
世帯	163,233世帯	
(前月より20世帯減)		
(16年3月1日現在)		

発行・町田市 編集・企画部広報広聴課  
〒194-8520 東京都町田市市中町1-20-23  
市役所の代表電話042・722・3111  
発行日・毎月3回1の日(1日、11日、21日)  
ホームページ <http://www.city.machida.tokyo.jp>



昨年(2003)のさくらまつり

春、町田はさくらで染まりま  
す。さくらまつりの会場となる  
「尾根緑道」は遠く丹沢や相模平  
野が望まれる市内のさくらの名所  
です。咲き誇るさくらを觀賞しな  
がら、ゆっくり散歩してみませ  
んか。

この尾根緑道には早咲きから遅  
咲きまで19種類・約460本のさ  
くらがあります。  
約1.5キロの会場には、さく  
らまつり実行委員会事務局  
(経済振興課内) ☎724・21  
29  
開催当日 テレホンガイド町田  
市 ☎0120・042786

## 2004 まちださくらまつり 尾根緑道

4月3日(土) 午前10時～午後4時  
4日(日) 午前10時～午後3時30分

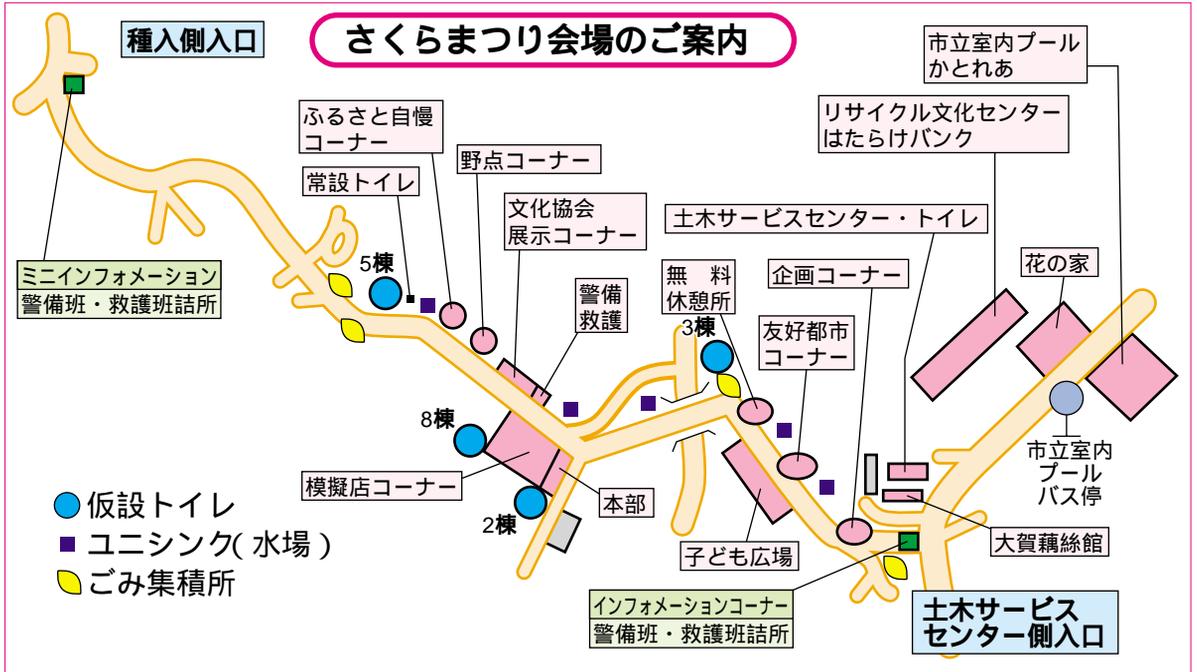
らをゆっくりと觀賞していただ  
けるように、たくさんベンチを用  
意します。  
開催日には、お茶会や模擬店、  
町田市文化協会による出展や県人  
会によるふるさと自慢コーナーな  
どの催しがあります。  
また、友好都市コーナーとし  
て、長野市・川西町・増穂町・川  
上村・沖縄市・大島町が郷土物産  
等を出品します。  
皆さんのご来場を心よりお待ち  
しています。  
駐車場はありません。お車で  
ご来場はできませんのでご了承  
下さい。  
なお、例年運行していましたがシ  
ヤトルバスは今年から廃止にな  
りました。当日は神奈川中央交通の  
路線バスをご利用下さい。  
町田バスセンター11番乗り場  
発、町田38系統市立室内プール行  
には増発(直行便)があります。  
運賃は大人片道250円です。  
お問い合わせ先  
開催前日まで 2004 町田市  
民さくら祭り実行委員会事務局  
(経済振興課内) ☎724・21  
29

### 組織が改正されました 学校教育指導課に 教育センター係が発足

4月1日から組織改正によ  
り、学校教育部の「教育相談  
所」と「教育研究所」は、それ  
ぞれ、指導課に新設された教育  
センター係の「相談部門」「研  
究・研究部門」となりました。  
現在改修中の旧生四小校  
舎の一部に、5月末の工事完了  
後、適応指導教室(けやき教  
室)とともに移転する予定で  
す。この組織改正によりこれま

で個別に対応してきた各業務の  
一元化や、その充実強化を図る  
予定です。  
なお、相談業務と適応指導教  
室は、移転までの間、現在の森  
野分庁舎4階で業務を行いま  
す。

問相談部門 ☎723・439  
6、研修・研究部門 ☎793・  
2481、適応指導教室 ☎72  
3・4396



### 町田市歌

作詞 花田鶴彦  
作曲 明本京静

*marziale*

おお ふじはるか あさあけの くもはとぶとぶ

ひはおどる ああ けんせつの

いーきにもえー はえある れー

きしけーがーさじとー

しみんぞわれら ござりたつ まちだ まち

だーわれらのまちーだ

### 町田市歌

(昭和38年5月4日制定)

- 大富士はるか 朝あけの  
雲は飛ぶ飛ぶ 陽はおどる  
ああ建設の 意気に燃え  
栄えある歴史 汚さじと  
市民ぞわれら ござりたつ  
町田 町田 われらの町田
- 史跡にかおる 高ヶ坂や  
四季おりおりの 薬師池  
ああうるわしき 春や秋  
光あふれる 武蔵野に  
力あわせて はげみ合う  
町田 町田 われらの町田
- 多摩の山なみ みどり濃く  
虹は呼ぶ呼ぶ 地は豊か  
ああ躍進の 旗たかく  
息吹も若き 産業のそ  
ゆくて輝く 町田 町田  
われらの町田

### 市長随筆 その12

#### 町田市長 寺田 和雄

たしか昭和43年前後のことかと思  
う。随分古い話になってしまっ  
たが、今住んでいる地域に住居を  
移したばかりの私は、乞われて町  
内会長を仰せつかった。都の職員  
ではあったが、あまり地域のこと  
はよくわからなかった。その町内  
の壮年の有志が、会をつくって地  
域の奉仕活動に精を出していた。  
今というボランティアである。そ  
のことが新聞で報せられ、善行会  
の表彰を受けることになった。  
当時、町田市の市長は初代の故  
・青山藤吉郎氏であった。市長さ  
んから表彰状を伝達されるという  
ことで、それならと、地区の集會  
所にお出でいただいたお祝いの会  
も一緒にやろうということになっ  
た。会は大いに盛り上がり、やが  
てお酒も出、手拍子の唄も出るよ  
うになった。そのうち、誰からと  
もなく、「市長さん何か唄って

### 「町田市歌」とそのころ

もあつてか、「町田市歌」の存在  
を知らない人が多い。市の職員ま  
でが同じよう、困ったことであ  
る。  
「町田市歌」は、市制5周年の  
記念事業として昭和38年制定され  
た。青山市長の遺著「藤吉郎回顧  
録」(武相新聞社刊)によると、  
「町田市は伝統の唄も民謡もな  
く、  
もあつてか、「町田市歌」の存在  
を知らない人が多い。市の職員ま  
でが同じよう、困ったことであ  
る。  
青山市長と夏目議長は、初めて  
二つの歌を聴かされ、市歌の方は  
唄い出しが「箱根の山は天下の  
嶮」に似ているが、どちらも、と  
ても明るい曲調で、これなら市民  
からも歓迎されるだろうと、帰路  
の小田急車中で思わず顔の筋肉も  
ゆるんだと述懐している。  
とくに市歌は、藤山一郎、安西  
愛子と一流の歌手によるもので、  
伸び伸びと、格調高く唄いあげて  
いて、数ある全国の市歌の中でも  
逸品ではないかと私は思ってい  
る。  
思えばこの市歌に関係された方  
々は、40余年後の今日、ほとんど  
故人となられ、町田市の歴史の一  
つになられてしまわれた。市制5  
周年の当時の町田市の人口は8万  
2千人、今や40万人を超える中核  
都市となり、この歌に未来を夢見  
た先人たちは、今何を思われる  
や。  
「市歌」の内容が今ではすこし  
調子があわないのではないかと  
いう声もあるが、いいではない  
か、これも歴史ですよ、と私は思  
うのである。